



VII 花を介した地域マネジメント

花は人と人、人と社会をつなぐ
無限のツールである
『花の社会性』でこまつが
進化する場所をつくる

地域の花や緑を地域資源としていかし、交流人口を増やすなどして‘持続可能’をキーワードに花の活動に還流できるような「マネジメント」事業を推進する。

- 花のツーリズムを推進
- 地域マネジメントのプラン策定

VII-1 花のツーリズムの推進

市内の花拠点を結び季節のフラワーツーリズムやガーデンツーリズムを起こして観光や地域交流の拡大を図る。

- こまつスタイルのフラワー&エコツアーなどのツーリズム企画を設定
(自然、文化、歴史と花をめぐる:SDGs倶楽部)
- 春から秋にかけて花巡りツアーのコース(観光と花の融合)を設定し、
地場産品や地域文化などとのコラボレーションで地域に還流
- フラワーアテンダントのおもてなしガイド(地元ガイドの育成)
- 花や緑に関する情報を常にキラリと発信(こまつ花キラリ情報局)



VII-2 地域マネジメントのプラン策定

地域で花を介した事業化を図り、活動が持続できるようなマネジメント運営(ツーリズム)を目指し、地域の活力、活性化に繋げる。



- 花を中心としたイベントや青空マーケットなど交流のネットワークの築造
(地域の「食」、地域の名産、おふくろの味)
- 地域花壇や花の名所を落とし込んだマップを活用
- 花の名所と地域のお店や観光施設との連携
- 地域が運営するマネジメントの推進(ツーリズム運営委託など)



効果

持続可能な地域活性化



花き産業だけではなく、花を食の素材や香り、染料などに利用してモノづくりに発展させるなど、さまざまな分野に波及させて、花をコアに商品開発を推進する。

● 花ときれいを味わう

VIII-1 花ときれいを味わう

新

花は見て触れて香りを楽しむのはもちろんですが、味わう新しい発想で花のまちを発信する。また、花の観賞は心身のストレスを緩和する効果があり、新しく食事を楽しむ食材の一つとなる。

花を使った食べ物の普及、開発や生産者へPR

- エディブルフラワーを使った商品の普及推進
(インスタグラムやHPで紹介)
- エディブルフラワーの生産者をつくる(花のビジネスの推進)
- 花のスイーツづくり
(和菓子、洋菓子、こまつ花ドルチェなど)
- 花のイベントで販売ブースを設け周知する
- 地元野菜と食べる花のエディブルフラワーをPR
- こども園や学校、福祉施設で花の食育を推進
(目で見て効果を楽しむ、花に関心を持つ、ストレス軽減)



食べられる花のスイーツ



食べられる花のサラダ



ぼたんの花びらを練り込んだ



キンセンカを使った



押し花タルト



バラの花びら入り

食べられる花を育てる【農林水産省ホームページ参照】

効果

地域資産の活用、花き産業の新展開

IX

花がもたらす6つの効果

花や植物人間にもたらす効果は、科学的に認められています。

花や植物を置くことによって、ストレスが緩和され、部屋の快適性や暮らしも向上し、コミュニケーションや仕事のパフォーマンスの促進にも繋がるとされている。

花と緑が美しいまち「フローラルこまつ」では、花や植物の6つの効果を考え、市民共創の取組のイメージや関係者の役割・連携を保ち、SDGs 持続的な花のまちづくりを推進する。

- まち全体で花のある暮らしを楽しむ
- 心とコミュニティを豊かにする花と緑の力

IX-1 まち全体で花のある暮らしで楽しむ6つの効果と力

まち全体に花のある暮らしがあることで、市民と花のまちづくりとの関係により6つの効果が得られます。花のまちづくりでは地域の様々な人が、自主的、主体的に関わることが大切であり、取り組みの方向性となる花で地域をきれいにし、良くしていく願いは共通しています。活動を続けるコツは楽しむこと、地域の伝わる祭事や伝統行事となるDNAとして引き継ぎたい。

推奨花

ピオラ・オレンジジャンプアップ

健全な心を育む

花壇づくりは作る側と見る側の幸せが実感でき、健全な心を育みます。

感性を磨く

より見栄えのする花壇づくりを心掛けることが感性を高めます。

向上心と向学心を持つ

活動での向上心と向学心は、花壇のレベルアップと活動の継続につながります。

健康で元気を保つ

花壇づくりを運動と捉え、何人かで協力し合うことで心身ともに健康になります。

感動と感謝

きれいな花壇を見た感激と見せてくれた方への感謝が活動の原動力です。

好ましい関係づくり

花が交流の輪を広げてくれ、これが活動のエネルギーを生みます。

花と緑がもたらす6つの力で『花の社会性』つくる

❖感性を磨く

花のコンクール大賞

自分たちで作った花壇をどうやったらもっと見栄えが良くなるだろうと意識して見続け、その反省を次の花壇づくりに活かせるようになると、花壇づくりでの感性が高まります。感性とは、物の本質を見抜く力です。感性が高まれば花壇やその周辺の隅々まで目が行き届くようになり、花壇ばかりでなくまち全体がきれいになっていきます。

❖健全な心を育む

フラワーガーデン（バラ園）、地域ガーデン、学びの花庭

花壇がいつもきれいであれば、花壇は誰がいつ見て楽しむことができます。この楽しみをできるだけ多くの人が享受できるようになれば、見せる側と見る側が花壇から幸せを感じ精神的にも余裕ができて健全な心が育まれます。

❖健康で元気を保つ

ガーデニング、生け花、ツールズム（花見）

花壇づくりは作業を通じて手や足、腰を使う軽度の運動と考えましょう。そして指先を使ったり数を数えたり、きれいな花の色を見たり、花の香りをかいだりなど、脳への刺激にもなります。また、何人かで作業することも互いが刺激し合うこととなります。これらのトータルな動きが心身の健康をもたらします。

❖感動と感謝と感激

オープンガーデン

花が咲いた時や見事にデザインされきれいに咲いた花壇を見た時は、感動が得られ心躍らされます。一方、他人が手をかけた花壇を見させてもらった時には感謝の念を持ち、自分が作った花壇を見た方からは「ご苦労様」などとねぎらいの言葉をかけられ嬉しい気持ちになります。感動と感謝は花のまちづくりの活動のエネルギーの原動力です。

❖好まし関係づくり

花育・花活

花を介して仲間づくりや交流が盛んになります。花が人と人、組織と組織とを取り持ってくれます。この特性を大いに活用して好ましい関係づくりを広げ、交流を盛んにし、互いに刺激し合うことで活動のレベルアップを図りましょう。

❖向上心と向学心を持つと

花楽校

花のまちづくりにここまでやればという到達点はありません。常にもう少しこうしたらもっと良くなるという向上心を持ち続けることが大切で、これにより活動の質は多方面で上がります。これを支えるのが向学心です。向上心と向学心が両輪となって活動が継続されれば、新たな活動の展開が見えてくるでしょう。

フローラルこまつは『花の社会性』を実現できる

花は人と人、人と社会をつなぐツールとしての無限の可能性を秘めており、花と人との係わり合い、花と社会との係わり合いの中で、花が社会に及ぼすプラスの影響のことを“花の社会性”と呼んでいます。

花のまちづくり「フローラルこまつ」は、この花の持つ社会性をまちづくりに活かす市民共創の運動です。そして市民には質の高い生活をもたらします。

公立小松大学など各分野の専門家と連携し、花に関する効果効能を共同研究を実施し、観光や園芸療法、医療や福祉だけでなく、そこに働く全ての人々が花のもたらす力で元気で健康と安心安全なくらしを証明する。こまつのまちづくりと人づくりを未来へ引き継ぎ、花と緑で健康づくりを進める。

○ 末広緑地など都市公園のリニューアルに合わせ、花や緑を介したインクルーシブガーデン整備を行い、大学や地域と連携した園芸療法やガーデンセラピーの取り組みを推進する。

(花がもたらす効果の研究所、地学連携モデル)

- グリーンツーリズム、フラワーツーリズムの推進
- 花のチカラ、緑のチカラでストレス軽減効果を研究
- 高齢者や障害者が花と関わる取り組みを推進
- いきいきサロンでの花活・花育の推進
- 花が社会に及ぼすプラスの影響を検証



公立小松大学（向本折キャンパス）



園芸療法とは、“花と緑で人を癒す”療法です。いいかえると、草花や野菜などの園芸植物や、身の回りにある自然とのかかわりを通して、心の健康、体の健康、社会生活における健康の回復を図る療法といえます。園芸療法の実践には、農業・園芸、医療、福祉、心理、教育などさまざまな分野の知識や技術が必要となる。



IX-3 花と緑×SDGs未来都市こまつ

捨てるのはもったいない。生ごみだって立派な資源となります。

花壇づくりで発生した、花柄や花期の終わった株などで堆肥作りを推進する。自分の家から出る生ごみも活用し、きれいな花をさかせよう。

資源の再利用や環境への対策を進め、地球に優しい花と緑の循環を推進する。

[目的]

○ごみの減量化を目的に、落ち葉や草をたい肥化し、フローラル活動の促進を図るもの。

(たい肥を花壇などで利用)

🌸堆肥枠やコンポスの貸し出し制度

問合せ:小松市エコロジー推進課(廃棄物)

[対象]

- ・町内会及び校下単位での申請とする
- ・住民が共有する場所に設置すること

[貸出範囲及び貸出]

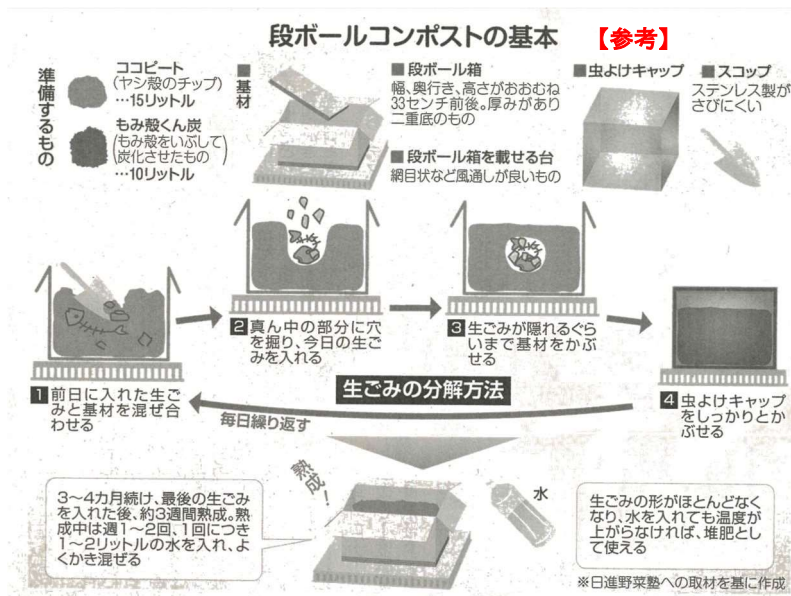
- ・1単位あたり3基(段)まで貸出しとする



たい肥枠

1基:容量200リットル

寸法790mm×790mm×400mm



コンポスト

1基:容量130リットル

高さ660mm程度



土のリサイクル:

プランターやコンテナの土は、化学肥料のみで栽培し続けると、その土はわずかな年月で使えなくなり、あとはゴミになりがちです。土は方法によっては再生でき、病気も発生しません。土のリサイクルも積極的に行う。

環境にやさしいSDGs

身近な自然を大切にし、環境にできるだけ負荷をかけない持続可能なフローラルこまつを推進する。

効果

市民の生活環境を向上 (花の力、効能の実現)、SDGsの実現